

いの流水俳壇

間 浩太選

「当季雑詠」

電線に長旅語る初燕

川村 博子

(評) 今年には燕を見るのは、少なくなつたと思うのは、私だけでしょか。

雀もあまり見ないと思います。

燕は南方面から春、日本全国に飛来し、子育てをして、秋暖かな南方へ帰って行く。

本当に長い旅であり、日本人にはなじみ深い小鳥である。

電線と燕については、特に農道付近の電線には、燕のグループが集まっているのを、「音符のようだ」と詠んだ俳句はありますが、電線と話をしているとの句は初めて見たような感じで、「面白い」と思ひ、また楽しく感じました。

想像が膨らんで、電話線として燕が他のグループの燕又は子燕と話をし、日本へ来る途中に嵐に遭ったとか、島の美しい景色を見たとか、話をしていると考えると面白く楽しいですね。

青田風瑞穂の田圃吹き渡る

津田 久美

(評) 植え田が青一色になるころは、土用の日差しも強く、風になびく稲穂は見るからに爽快である。

その青田に入って苛酷な仕事であった田草取りは、最近では減っています。たまにはその姿が見られます。

白鷺などが飛んでいると、青田の鮮やかさが一段と美しい。

「瑞穂」という言葉も懐かしい言葉で

「瑞穂の国」は日本の古い呼び名(美称)で、みずみずしい稲穂が、よく実る国の意味で使われていましたが、最近では田圃だけでなく、転作や休耕田が増加して、瑞穂の景が減少していくのは残念に思います。

みずみずしく、よく稔った田圃を青田風が吹き渡る状況は、豊作も想像され、この句を読めば爽やかな気持ちになる句と思えました。

遠足を思い頬張るにぎり飯

片岡 包女

(評) 遠足は老若男女にかかわらず、楽しい行事であり、懐かしい思い出のあるものであるが、特に小学生のころの遠足は思い出の深いものである。

俳句では、遠足は春、運動会は秋と決めているが、実際には秋にも遠足が行われることもあるが、俳句の上で春となっているのは「野遊び」「摘草」「磯遊び」などの戸外遊びが春の季語になっているので、その関連もあるとのこと。

遠足で楽しいのは、お弁当で、前日から楽しんで待ち、昼の弁当を楽しみ、思い出に残ったものです。昭和一桁生まれの者の弁当は、梅干しが中に入っているにぎり飯で、少し念を入れたのはにぎり飯の上を海苔で包んだもので、卵焼きが入ったのはごちそうであった。

現在は卵は豊富で安価で常時食べることができるが、昭和の初めには、特別なときに食べられたものです。

この句の作者も頬張るにぎり飯に、遠足の楽しかった思い出を噛み締めている様子が目に浮かびます。

行商の捌く手技や初鯉

竹崎 光子

生かされて悲喜こもごも額の花

夏のれん替えて病みし子待ちにけり

ごろごろと実梅洗う青の音

集落を貫く道や著我の花

父の日や墨壺残る道具箱

梅雨晴れの昼餼となりぬ叔母卒寿

宅急便かすれし押印青葉光

腕に来て鳴く蚊はたわむれ遊ぶかな

ふと目覚め網戸あかりに春の月

とどまれば嗟せ返りくる草いされ

病むことも命の証梅雨寒し

畝越しに話のはずむ娘の茶摘み

左見右見ハツシと薔薇剪る女

濃紫陽花息して沈む角砂糖

次 題 「当季雑詠」五句

締め切り 毎月五日

投句先

社会教育課

いの町3597

893-2012

伊野から、高知・本州方面へ早く着く!

早朝普通列車利用(伊野5:35発)で高知5:56着。乗り換えて岡山8:38着、新大阪9:35着

(各駅停車) 普通列車

須崎 4:50発

伊野 5:35発

高知 5:56着

多度津 8:38着

高松 8:11着

(乗換) のぞみ8号

岡山 8:49発

新大阪 9:35着

新大阪 9:37発

名古屋 10:29着

(乗換) さく5547号

岡山 8:57発

広島 9:37着

博多 10:47着

熊本 11:25着

至東京 至鹿児島中央

JR JR四国

駅まで車で駅からトレイン 便利でおトクなパークアンドライドサービス 駐車台数 伊野駅13台

最大2日間 駐車無料! お一人様あたり伊野駅発着の往復タイプ乗車券類 2,000円以上購入 1日無料

お一人様あたり伊野駅発着の往復タイプ乗車券類 4,000円以上購入 2日無料

詳しくはJR四国ホームページをご覧ください。 <http://www.jr-shikoku.co.jp/>

JR四国 ウェブ検索 Always Railways